

開業5年で過去最高574組獲得 好調の裏にはセクションを超えたチーム力

経営理念

- ①お客様、関わる全ての人と喜びと感動を分かち合う。
- ②誇りの持てる「家族のような会社」であり続ける。
- ③夢を持ち、限りなき挑戦をしていく。

カップルやゲスト、チームメンバー、会場に対する想いを語っていく社内イベントなのですが、当日に向けて練習も欠かせません。1ヶ月前には台本作成に取り掛かり、1ヶ月前にはプレゼンが形になってくる。もちろん本業がそれぞれあるわけですが、準備を通じ、改めてこの会場で働く意味は何かをそれぞれが考えるきっかけに繋がってくるわけです。セクションを超えた想いを声を大にして伝えるからこそ、理念の浸透、感謝の気持ちがさらに高まっていく。今年8月7日に開催が決定。間も無く準備も開始します。」

月に1度の委員会活動 意見交換の場に繋がる

——委員会活動も精力的に実施しています。

「2016年からスタートしたこの企画。先に取り組んでいた飲食事業で好評だったことから、婚礼部門でも始めました。当会場の社員が全員参加し、セクションを超えたコミュニケーションの活性化と、現場スタッフでもリーダー経験を積むことを目的としています。現在は、清掃や清潔などを含む5Sや、イベントプロモーション、衛生危機管理など、7つの委員会が月に1度

活動しています。キャリアがまだ浅いスタッフでも、自分の意見を会社に提案できる場として、満足度も高まっています。委員会活動の一環として、先日はチャペルの大掃除を行いました。」

——セクションの“壁”を取り払っていったことが、574組受注の裏にはあるわけですね。

「産地にこだわった料理のフェアを、過去に開催したこともありました。これはブライダルチームだけではできなかった企画。キッチン・パティシエのメンバーと想いを共有しているからこそ、実施できたフェアだと感じます。」

「打ち合わせスタート前の空き時間を活かし、成約者向けの

説明会『ウエディングスクール』も実施しています。プランナーからの今後の流れなどはもちろん、パティシエ自らが新郎新婦の前に立ち、オリジナルケーキの

提案を行ないます。企画1つをとっていても、施設全体のチーム力が試される。結婚式は1人で創れるものではありません。プランナーだけでなく、「この人たちなら」結婚式を任せられる、そう思ってもらえることが重要でしょう。」

ブライダル産業フェア 2018 初登場決定!

6月20日(水) B会場
11:00~12:00

※都合により変更の場合がございます



▲今年も周年祭の開催が決定

東京タワーに隣接する人気会場「The Place of Tokyo」(東京都港区)を運営する一家ダイニングプロジェクトは、飲食事業を主軸としている。婚礼のノウハウゼロからスタートしたにも関わらず、開業5年目で過去最高の574組を受注。その裏には、セクションを超えたチーム力があると、執行役員 ブライダル事業部長・鈴木大輔氏は語る。



The Place of Tokyo
執行役員 ブライダル事業部長
鈴木大輔氏

毎年8月に周年祭を開催 プレゼンで想いを共有

——飲食事業からスタートし、2012年、満を持してブライダル事業を開始。1チャペル3バンケットを所有するThe Place of Tokyoは、昨年5周年を迎えました。“居酒屋出身のスタッフ”で構成されたチームは、開業当初、婚礼のノウハウはゼロだったそうですね。

「電話対応1つをとって見ても、『お電話ありがとうございますっ! The Place of Tokyoでございますっ!!』と、居酒屋気

質が出てしまうこともありました(笑)。私自身も飲食のキッチン出身で、婚礼の知識はもちろんなく、スタッフ全員、熱い想いを武器に迎えたオープンでした。」

——2017年3月期は、過去最高の574件を受注し、好調に推移しています。その強さはどこにあるのでしょうか。

「天井がガラス張りのチャペルからは、東京タワーを見上げることができます。立地を活かしナイトウエディングの受注ができるのは、強みの1つと言えます。ハードの魅力を引き出しつつも、やはり重要になってくるのは『人』だと感じます。当会場を運営する一家ダイニングプロジェクトは、3つの経営理念を掲げています。この理念をしっかり理解し、セクションを超えて想いを共有する機会を設けています。」

——施設がオープンした8月には、周年祭を毎年開催していると聞きました。

「ブライダルチーム、キッチン・パティシエ、マーケティングセールス、レストランの4つのセクションに分かれ、チームプレゼンテーションを行います。1年間の事業報告はもちろん、